

# センターリングの祈りにおける意向と考え

## 1. (スコラ哲学の認識論に基づく) 人間の精神 (心、mind) の構造

### ● 理性

理性は、永遠の真理 (価値のあるもの) を知りたいと望んでいますので、五感 ( 視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚 ) や記憶と想像力の協力を借りながら、真理を追求しています。真理を見つけたと判断したら、それを意志に「紹介」します。

### ○ 理性の限界

1. 判断を間違える可能性があります。
2. 神についてのいろいろな (有限な) 真理を知ることができても、神ご自身を知る (把握する) ことができません。神ご自身と出会ったら休止します。

### ● 意志

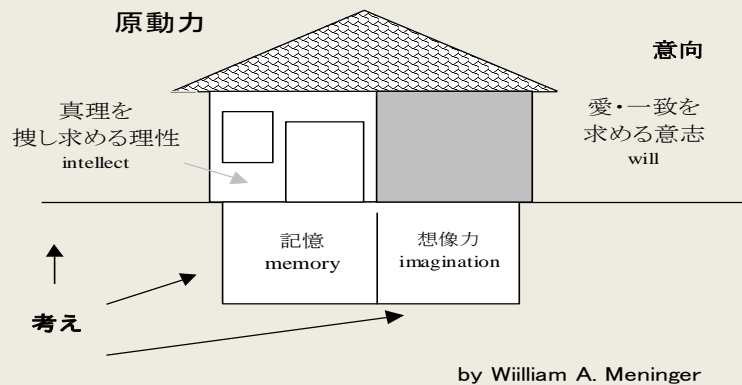
意志は、愛の対象と結びたいと望んでいますが、自ら愛すべきもの (真理) を知ることができません。それゆえに、理性を絶対的に信頼して、紹介された真理 (理性が間違っている) を善として認め、疑いなく受け入れて、愛します。

意志は、神ご自身を愛すること、つまり神を知る (神と絆を結んで、親しい関係に入る) ことができます。

\* 「セム人にとっては、“知る” (‘:yāda’) とは、単なる抽象的な知識以上のことであり、対象との実存的関係を表わすものだからである。彼らによると、なにかを知るとは、それについて具体的な体験をすることを意味する。」 (聖書思想辞典より)

## 2. 四人の姉妹としての理性、意志、記憶、想像力

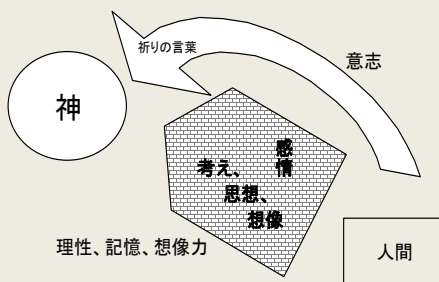
- ◆ William A. Meninger (トラピスト会の司祭) 師は、理性、意志、記憶、想像力を同じ家で住んでいる四人の姉妹に例えて、その働きを以下のように説明しました。



📖 「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。」 マタ 6,6

- ◆ 意志が「住んでいる」暗い (奥まった) 部屋こそ、神と出会い、神と交わる場です。

## 3. 理性が与える可能性



人間を変えるのは、  
神についての知識ではなく、  
神ご自身との出会い  
(神の愛と働きを受けること) なのです。

- 私たちは、誰かを全然に知らなければ、この人を愛することができません。
- 理性は、神ご自身を知ることができなくても、理性によって得た神についての部分的な知識は、神を求めること、また神を愛することを可能にします。

📖 「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」  
ロマ 10,17

📖 「私たちは、神の掟を守るなら、それによって、神を知っていることが分かります。「神を知っている」と言いながら、神の掟を守らない者は、偽り者で、その人の内には真理はありません。しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています。これによって、私たちが神の内にいることが分かります。神の内にもいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません。」 1ヨハ 2,3-6

#### 4. 理性がもたらす危険性

- ◆ 神を求めるのを妨げるのは、いろいろな間違っただけではありません。正しい考えでも、それに執着したら（神や現実そのものより大事にすること）、人間と神との間の壁となって、人間を神と繋げる代わりに、離すものとなります。
  - 私たちがもっている考えや神のイメージと、神ご自身とは異なります。その考えやイメージはどんなに素晴らしいものであっても、神はいつもそれ以上に素晴らしいです。
  - 神をよりよく知るようになるために、今持っている神についての考えやイメージの変化を許す必要、また、それを手放す覚悟を持つ必要があります。
  - 神についての考えやイメージに執着するのは、偶像礼拝です。その場合は、生きておられる神との関係を深めることができません。古い考えやイメージが消えることを許すと同時に、神についての自分の考え方を正す必要があります。

自分が神から離れているという考えは、  
この人を神から最も遠くに離しています  
(この人と神との間の最も厚い壁となっています)。

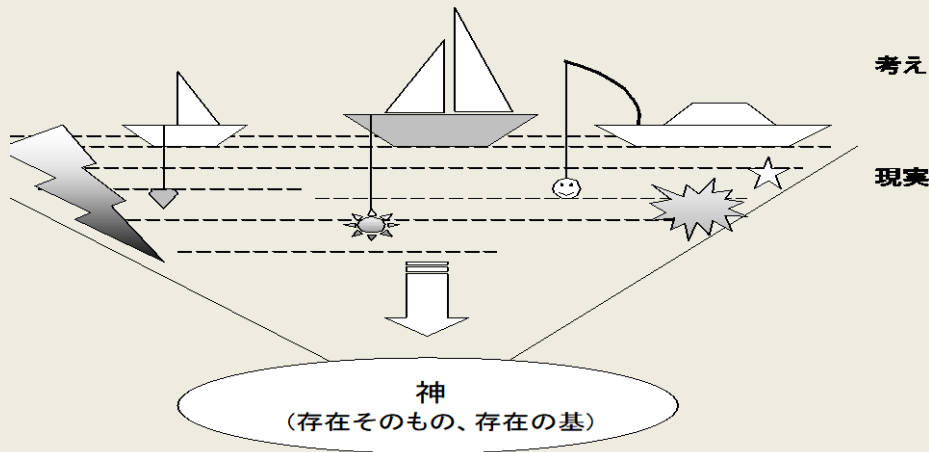
#### 5. 意志の働きが与える可能性

- ◆ 私たちは、思想や想像を越えて初めて直接に神と出会うことができます。
  - 「父である神は、永遠においてただ一つのことばを宣べられました、それを沈黙の中で述べられたのです。」 (十字架の聖ヨハネ)
  - 神の言葉（言語）とは、沈黙です。考え、想像、感情などは、この言葉の解釈に過ぎないものです。
  - 観想の祈りとは、理性（考え、想像）や感覚や感情を超えて、沈黙の中で神と交わる（コミュニケーションをする）ことです。
  - センターリングの祈りの中で、私たちは、神についての考え、想像や感情を取り扱うのではなく、その主体である神ご自身に意志を向けます。それゆえに、センターリングの祈りは、沈黙という「言語」の学習であり、観想という恵みを受けるための準備です。

「知らない目標に達するために知らない道をとらなければなりません。」  
(十字架の聖ヨハネ)

#### 6. センターリングの祈りの目的

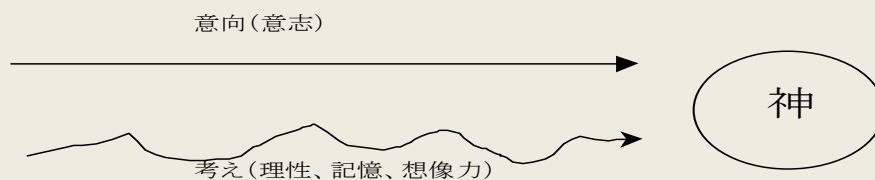
- ◆ センターリングの祈りの目的は、神について考えることではなく、思想や想像、また、感情を超えて、直接に神と出会い、神と共にいることです。したがって、大切なのは、神についての何らかの素晴らしい考えではなく、神ご自身の現存です。
  - センターリングの祈りの時は、どんな考えが浮かんできてもこれを無視したいものです。
  - 神や現実についての私たちの考えは、神や現実についての私たちの解釈に過ぎないものなのです。



- センターリングの祈りの目的は、考えるのを完全にやめること（感覚、感情、想像、記憶、思考、解説などをなくすること）ではなく、それらと同一視しないこと、また、それらへの執着をなくすることです。私の考えは、私ではない（神や現実でもない）、また、私の最も大事なものでもありません。

## 7. センターリングの祈りの実り

- ◆ センターリングの祈りの実りは、日常生活の中で現れます。
- ◆ センターリングの祈りの一つの实りは、意識の新しいレベルです。一つのレベルでは、いわゆる雑念があっても、もう一つのレベルでは、私たちは、絶えず神と繋がっています。それによって、意識的に祈ろうとするときだけではなく、日常の生活において、いろいろな事をしていながらも、絶えず祈ることができるようになります。



- ◆ センターリングの祈りの実りは、自分の働きの結果ではなく、神の働きの結果ですので、この祈りをするためには、謙遜が必要です。

📖 「それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「私のしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「私の足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もし私があなたを洗わないなら、あなたは私と何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いのだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」ヨハ 13,5-10

📖 「主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。」ルカ 12,37

センターリングの祈りにおいて、唯一の失敗とは、祈りの最中に、それを辞めることです。